

# IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

2023年2月号

目次 (項目をクリックすると記事本文にジャンプします)

## 【トップニュース】

- ◆ 全米総合がんネットワークによる中枢神経系腫瘍に関する新規ガイドラインが発表
- ◆ 英国では3月が脳腫瘍啓発月間
- ◆ Tessa Jowell脳腫瘍ミッションが報告書を発表
- ◆ 患者報告アウトカム測定用アイテムライブラリの使用に関する初の国際的な推奨事項
- ◆ 脳腫瘍や脊髄腫瘍による失業は症状の悪化、経済的苦境、および生活の質の低下と関連することが研究で明らかに
- ◆ コミュニティにおけるがん患者の診療の改善に向けた12件の重要な政策分野を国際円卓会議が確認
- ◆ 英国集束超音波財団の発足が発表
- ◆ 膠芽腫の臨床試験で患者が術前脳照射を受ける
- ◆ 脳腫瘍患者にとって思考能力の変化は苦痛である – その難題を解決する新規マニュアル
- ◆ 希少脳腫瘍患者の生活の質に関する研究への協力・参加を医療従事者に呼びかける
- ◆ COVID-19パンデミックが高悪性度神経膠腫患者の診療と生存に与える影響を評価する論文
- ◆ 中国国家脳腫瘍レジストリが2019-2020年統計報告書を公開

## 【治療関連ニュース】

- ◆ 膠芽腫の臨床管理における重要な原則に関する専門医による総説

## 【研究ニュース】

- ◆ 頭部外傷が神経膠腫リスクを増大させる機序を検証する研究
- ◆ 人工知能のアルゴリズムを用いて将来の膠芽腫治療の分子標的を特定した研究
- ◆ 降圧薬が脳腫瘍の免疫療法中の脳腫脹を抑制し転帰を改善する可能性があることが研究で明らかに
- ◆ 小児びまん性内在性橋膠腫に対するCAR-T細胞療法の第1相臨床試験、オーストラリアで患者を募集開始
- ◆ 小児脳腫瘍の治療法の発見を目的とする新規研究プロジェクトが発足
- ◆ 新規ナノ粒子療法が動物実験で膠芽腫の治療に成功したという研究報告
- ◆ 動物実験により膠芽腫の化学放射線療法後の白血球減少の原因を発見、治療法候補も特定
- ◆ テモゾロミド化学療法へのインターフェロンαの追加で初発高悪性度神経膠腫の生存期間が延長することが多施設共同第3相臨床試験で示唆されたとの研究報告
- ◆ 脳腫瘍を検知する新規尿検査技術が開発との研究報告
- ◆ ジャンクフードと脳腫瘍の関連が研究で明らかに
- ◆ 神経膠腫関連てんかんと腫瘍増殖の背後にある過程が研究で明らかに

- ◆ 再発高悪性度神経膠腫における音響力学療法の米国での臨床試験で患者を募集中
- ◆ 小児びまん性内在性橋膠腫の有望な治療薬ONC201にまつわる話から学ぶべき点を考察した小論文
- ◆ 成人における希少脳腫瘍の診断、治療、および分類に関する総説論文

## 【企業ニュース】

- ◆ 初発膠芽腫の治療機器オプチューンがフランスで医療費償還の対象になる：ノボキア社発表
- ◆ 非小細胞肺がんの脳転移を対象としたMETIS試験に関する最新情報：ノボキア社発表
- ◆ 米国食品医薬品局がFLAG-003を小児びまん性内在性橋膠腫患者の治療薬として希少小児疾患治療薬に指定：FLAG Therapeutics発表
- ◆ 米国食品医薬品局がBEA-17を膠芽腫治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Beactica Therapeutics社発表
- ◆ 米国食品医薬品局がAdze-1.17-CD40Lを悪性神経膠腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Adze Biotechnology社発表
- ◆ 米国食品医薬品局米国が経口薬JBI-778を膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Jubilant Therapeutics社発表
- ◆ 神経膠腫患者の重要な臨床変異の同定を支援する2種類の新規抗体を発売：ロシュ社発表

## 【イベント／学会ニュース(抜粋)】

## 【トップニュース】

### 全米総合がんネットワークによる中枢神経系腫瘍に関する新規ガイドラインが発表

全米総合がんネットワーク（NCCN）による中枢神経系腫瘍ガイドラインの最新版が、[Journal of the National Comprehensive Cancer Network](#)誌に掲載された。全米総合がんネットワークは患者の治療、研究、および教育に特化した米国の32施設のがんセンターからなる非営利同盟で、本ガイドラインの最新版は、米国における原発性および転移性脳腫瘍の管理に関する最新の合意推奨を提供するものである。本ガイドラインの最新版は、2021年のWHO中枢神経系腫瘍分類（脳腫瘍の分子的小および遺伝的特徴を分類および診断に統合するものである）を組み込んでおり、臨床医が中枢神経系腫瘍患者の複雑な管理に対応するのに役立つアルゴリズムと管理部門の原則を含むものである。[続きを読む](#)（無料登録が必要）。

[目次に戻る](#)

### 英国では3月が脳腫瘍啓発月間

3月1日、英国では「脳腫瘍啓発月間」が始まり、英国内の脳腫瘍団体がさまざまな市民参加型イベントや募金活動が実施される。詳細は、「英国脳腫瘍啓発月間」で検索するか、お近くの英国内の脳腫瘍団体にお問い合わせください。

[目次に戻る](#)

### Tessa Jowell脳腫瘍ミッションが報告書を発表

英国を本拠地とするTessa Jowell脳腫瘍ミッション（TJBCM）（[Tessa Jowell Brain Cancer Mission : TJBCM](#)）は報告書「どこで治療するかは重要か？」を発表した。本報告書は2020～2022年に英国内の脳腫瘍センター30施設のうち28施設のケアの質を調査し、英国国民保健サービス（NHS）における脳腫瘍診療の詳細なデータ収集を行ったもので、治療先によって、患者が利用できる診療やケアに格差があることを示している。本報告書による主要勧告は、革新的な事例や「優良地域」の共有、各センターに特有の格差や地域の課題への対処、および共通の課題を克服するた

めの全国的協力の3点である。本報告書全文は、[こちら](#)からオンラインで閲覧可能。

[目次に戻る](#)

## 患者報告アウトカム測定用アイテムライブラリの使用に関する初の国際的な推奨事項

腫瘍分野における患者報告アウトカム測定のためのアイテム ライブラリの使用に関する初の国際的な推奨事項が[The Lancet Oncology](#)誌に掲載された。Claire Piccininらによって行われたこの重要なプロジェクトは、標準的な（静的）質問票の厳密さを維持しつつ、患者の声をより柔軟に取り入れる方法の必要性を訴えている。患者報告アウトカム（PRO）は、がん患者の生活に対する疾患と治療の影響を評価するために重要である。アイテム ライブラリはそのような尺度の一種であり、一連の質問（「アイテム（項目）」）で構成されている。そして、特定の臨床試験や患者集団に対して最も関連性の高い質問を選択できる。その結果カスタマイズされた質問票によって、疾患関連の症状や治療の副作用などのがん患者の健康関連の生活の質を評価できる。アイテム ライブラリによって質問を個別対応させることが可能となり、患者は自分の経験をより詳細に説明できる。記事全文は現在[こちら](#)で閲覧可能（最初の段落にあるThe Lancet Oncology誌のリンクをクリック）。

学際的な国際共同グループで構成された本論文の共著者の1人で、IBTA会長のKathy Oliverは次のように述べた。「患者報告アウトカムは、病気と共に生きる人々にとって何が重要かを理解するために不可欠なものです。本プロジェクトでは、アイテム ライブラリの使用を最適化するための実に貴重な推奨事項を作成しました。これらの推奨事項は患者の重要な視点を取り入れる臨床試験をデザインする人々にとって非常に有益なものとなるでしょう」。

[目次に戻る](#)

## 脳腫瘍や脊髄腫瘍による失業は症状の悪化、経済的苦境、および生活の質の低下と関連することが研究で明らかに

原発性脳腫瘍または脊髄腫瘍患者277人を対象とした研究が[Neurology](#)誌に掲載され、腫瘍の診断により失業した場合、経済的苦境、痛み、不快感、不安、および抑うつ重症化、ならびに生活の質の低下に陥ることが分かった。米国での本研究の結論は、「経済毒性およびその要因の調査と対処のためのイノベーション」の必要性を含むものである。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## コミュニティにおけるがん患者の診療の改善に向けた12件の重要な政策分野を国際円卓会議が確認

2022年10月に開催された「[コミュニティにおけるがん診療の必要性に関するCommunity 365円卓会議](#)」の最終活動報告書がオンラインで公開された。欧州がん機構（ECO）が主催した本会議では、主要な政策立案者、政治家、患者活動家団体、腫瘍専門医、および一次医療従事者により、コミュニティにおけるがん診療の必要性に関連するEUの政策策定について議論された。IBTA会長Kathy Oliverは薬剤師のMirjam Crul（ECO役員）と共にオンラインイベントの共同議長を務め、活動報告書も共同執筆した。本会議で展開・議論された政策提言で、12件の重要な論題が浮上した。その中には、がん患者の転帰に関するデータ収集の改善、がんの心理的・情緒的影響に対処するための診療調整と支援の改善、がん患者の診療により大きな役割を果たすための一次医療従事者の支援、および十分なサービスを受けていない地域に対する診療の改善の必要性が含まれた。[続きを読む](#)。報告書全文（pdf）は[こちら](#)でダウンロード可能。

[目次に戻る](#)

## 英国集束超音波財団の発足が発表

英国集束超音波財団（UK FUSF）はその正式発足を発表した。米国にある[姉妹財団](#)と同様に、英国集束超音波財団は非臨床研究や臨床試験への資金提供や促進を通じて、集束超音波の開発・普及を推進することも目的としている。現在、脳腫瘍の治療法候補として集束超音波の使用に関する研究が進行中で、この財団の設立により、その開発が加速

することが期待される。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 膠芽腫の臨床試験で患者が術前脳照射を受ける

初発膠芽腫患者が英国マンチェスターの病院において、第1相試験（[NCT03582514](#)）の一環として術前放射線療法を受けたことが発表された。[POBIG](#)（膠芽腫における術前脳照射）として知られる本試験では、通常、膠芽腫の手術後に行う放射線治療を初回手術前に1度実施することの安全性と実行可能性の検証を目的としている。これは早期放射線治療により、外科手術前に腫瘍塊を縮小させ、再発を遅らせることで、生存率を向上させることを期待するものである。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 脳腫瘍患者にとって思考能力の変化は苦痛である – その難題を解決する新規マニュアル

米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）脳腫瘍センターのSheri Sobrato Brisson脳腫瘍サバイバーシップチームは、認知的健康の管理を支援する「認知戦略マニュアル」を作成した。同チームは、患者との共同作業により認知的健康のための情報と戦略を提供し、さらなる自立の促進と生活の質の向上を支援する。本マニュアルの無料オンラインコピーは、[こちら](#)から入手可能。

[目次に戻る](#)

## 希少脳腫瘍患者の生活の質に関する研究への協力・参加を医療従事者に呼びかける

脳腫瘍などの希少がんは、発症率が年間10万人あたり6症例未満であることが特徴である。総計で、希少がんは診断される全がん症例の24%を占める。希少がん患者は心理社会的転帰や生活の質が低下し、診療や情報の利用に関連する問題を抱えている。希少がんの診断が健康管理経験と生活の質に与える影響を評価するための研究が最近、欧州がん研究治療機関（EORTC）生活の質グループから資金提供を受けた。この国際的研究はオランダがん研究所により主催され、固形希少がんと診断された患者における生活の質の評価基準を高めることを目的とするものである。

希少脳腫瘍、特に膠芽腫や乏突起膠腫患者に関わる医療従事者の方で、この新規研究のための患者の募集やインタビューへの参加による協力に興味がある方は、Catarina Simões Padilla ([c.simoes@nki.nl](mailto:c.simoes@nki.nl)) までご連絡ください。

[目次に戻る](#)

## COVID-19パンデミックが高悪性度神経膠腫患者の診療と生存に与える影響を評価する論文

Scientific Reports誌に掲載された研究は、COVID-19パンデミックが高悪性度神経膠腫患者に与える影響を評価したものである。ドイツ国内のさまざまな医療機関から集められたパンデミック時（2020年03月～2020年05月）の高悪性度神経膠腫患者コホートとパンデミック前（2019年03月～2019年05月）のコホートの比較を通じて、両群間で無増悪生存期間（治療中および治療後に疾患が増悪しない期間）や全生存期間に統計的有意差が認められないことが分かった。また、実施された診療や処置のパターンも差が認められなかった。しかし、MRI脳画像診断と腫瘍生検の間隔は、パンデミック時に有意に長くなっていた（11日対21日）。こうした知見は現在の標準治療の変更を正当化するものではなく、医療従事者は確立されたガイドラインに従って、最初の症状、初期診断、治療戦略、および脳MRIの追跡調査までの期間間隔を短くする必要があると著者らは結論付けている。 [続きを読む](#)（論文全文）。

[目次に戻る](#)

## 中国国家脳腫瘍レジストリが2019-2020年統計報告書を公開

2018年1月に設立された中国国家脳腫瘍レジストリ（NBTRC）は中国全土で最大の患者数を誇り、脳腫瘍の病理学と解剖学的部位に関する最新の基準を用いている。このたび、中国国家脳腫瘍レジストリによる2019-2020年の統計報告書がThe Lancet Regional Health – Western Pacific誌に掲載され、中国で診断された脳腫瘍25,537症例とさまざまな年齢や地域にわたる分布が解析されている。 [続きを読む](#)（論文全文）。

## 【治療関連ニュース】

### 膠芽腫の臨床管理における重要な原則に関する専門医による総説

[JCO Oncology Practice](#)誌に掲載された専門医による総説は、膠芽腫の様々な治療法（放射線治療、化学療法、免疫療法、腫瘍治療電場を含む）と実験的治療に関して利用可能な科学的根拠を要約するとともに、最近および進行中の臨床試験に関しても簡単に紹介している。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 【研究ニュース】

### 頭部外傷が神経膠腫リスクを増大させる機序を検証する研究

[Current Biology](#)誌に掲載された研究により、脳損傷と遺伝子変異の組み合わせが星細胞腫を発症させる機序が分かった。マウスを用いた一連の非臨床試験により、p53遺伝子に変異が認められる場合、脳損傷によって生じる脳の炎症が、脳細胞の一種であるアストロサイト（星状膠細胞）をより未分化の「幹細胞様」細胞に逆行させ、それが星細胞腫に分化することが推論された。研究者らは頭部外傷と診断された2万人以上の電子カルテを解析し、脳腫瘍の発症率を対照群と比較したところ、脳腫瘍リスクは低いものの、頭部外傷を負った場合は4倍近くに増加することを突き止めた。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 人工知能のアルゴリズムを用いて将来の膠芽腫治療の分子標的を特定した研究

[Nature Cancer](#)誌に掲載された研究で、研究者らは膠芽腫の遺伝子、画像、および分子データの膨大なライブラリを用いて、人工知能アルゴリズムSPHINKSを作成・訓練し、増殖を促すと思われる高活性タンパク質である「マスターキナーゼ」を推測し、これが薬剤の標的候補になる可能性を示した。このアルゴリズムが特定した2つの「マスターキナーゼ」であるPKC $\delta$ とDNAPKcs は2種類の膠芽腫サブタイプにおける腫瘍の増悪と関連していた。研究者らは次に、患者の腫瘍検体とこれらのキナーゼを標的とする薬剤を用いた細胞ベースの実験でこれらの知見を検証した。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 降圧薬が脳腫瘍の免疫療法中の脳腫脹を抑制し転帰を改善する可能性があることが研究で明らかに

[PNAS](#)誌に掲載された実験結果で、降圧薬ロサルタンは、免疫療法の一つである免疫チェックポイント阻害薬で治療中の膠芽腫患者に生じる脳腫脹（脳浮腫）を抑制する可能性があることが分かった。現在まで、免疫チェックポイント阻害薬は第3相試験で膠芽腫に対する有効性を示すことができていないと著者らは解説している。脳浮腫は免疫チェックポイント阻害薬の副作用の1つで、通常ステロイドで抑制されるが、ステロイド使用は免疫療法による抗がん効果自体を弱める可能性がある。一連の動物実験、遺伝子実験、および細胞実験により、ロサルタンは免疫療法による脳浮腫を抑制し、今後の臨床試験で、免疫チェックポイント阻害薬と併用して転帰を改善する薬剤候補となる可能性があることが研究者らは推論した。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 小児びまん性内在性橋膠腫に対するCAR-T細胞療法の第1相臨床試験、オーストラリアで患者を募集開始

小児びまん性内在性橋膠腫（DIPG）の治療に使用される免疫療法の一つであるCAR-T細胞療法の臨床試験が現在オーストラリア・シドニーで進行中であることがシドニー小児病院ネットワークのニュースリリースに掲載された。CAR-

T細胞療法は、患者のT細胞（白血球の一種）を取り出し、腫瘍を認識し攻撃するように「訓練」した後、患者の血液に再注入するものである。この第1相臨床試験では、CAR-T細胞療法は放射線治療と同時に行われる場合もある。本試験は「[Levi's Catch](#)」とも呼ばれ、オーストラリアで7歳の時にびまん性内在性橋髄腫と診断されたLeviという少年に敬意を表し、記念して名付けられた。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 小児脳腫瘍の治療法の発見を目的とする新規研究プロジェクトが発足

Targeted Oncology誌オンライン版に掲載された特別報告は、小児脳腫瘍（髄芽腫、神経膠腫、頭蓋咽頭腫）ならびにおよび肉腫の治療法発見を模索する5年間の研究プログラムに焦点を当てたものである。本記事は、通常予後不良とされるこれらのがんにおける既存および進行中の研究・臨床試験を要約し、将来への希望を強調するものである。本研究イニシアチブは、米国国立がん研究所（NCI）と英国王立がん研究基金（CRUK）が出資するプログラムである。がんセンター グランド チャレンジから2,500万米ドル（訳注：約34億円）の助成金を提供されている。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 新規ナノ粒子療法が動物実験で髄芽腫の治療に成功したという研究報告

[Science Advances](#)誌に掲載された研究で、研究者らは、脳腫瘍を治療できる可能性のあるナノ粒子を用いる新規分子標的治療を開発したことが示された。この治療法は、腫瘍細胞に付着するように設計されたナノ粒子を使用し、合成分子（核酸）を徐々に放出する。この合成分子は、髄芽腫腫瘍に過剰に存在し、腫瘍の増殖と浸潤を促進すると考えられる特定の遺伝物質である「oncomiR」マイクロRNAの特定の2本の短鎖に結合して、その効果を相殺するものである。このナノ粒子を、髄芽腫を持つマウスの脳にテモゾロミドとともにカテーテルで注入したところ、腫瘍が縮小し、80%のマウスが実験期間（120日）を超えて生存した。一方、無治療マウスの生存期間は平均51日だった。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 動物実験により髄芽腫の化学放射線療法後の白血球減少の原因を発見、治療法候補も特定

[Science Translational Medicine](#)誌に掲載された研究で、放射線療法と化学療法後に一部の髄芽腫患者に認められ、予後を悪化させる白血球の持続的減少（リンパ球減少症）の原因や治療法候補が見いだされた。化学放射線療法を受けている髄芽腫患者から採取された血液の遺伝子解析と細胞解析、ならびに、一連の非臨床試験を通じて、リンパ球減少症罹患髄芽腫患者は、放射線療法後の血液中に骨髄由来抑制細胞（MDSC；免疫応答を抑制することで知られる白血球の一種）の数が多いいことを研究者らは突き止めた。その後、髄芽腫をもつマウスを使った実験で、骨髄由来抑制細胞がリンパ球減少症の原因であること、ならびに、骨髄由来抑制細胞を阻害するタグラフィルと治験薬 INCB001158という2つの薬剤がリンパ球減少症を回復させ、かつ、生存率を上昇させることが分かった。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## テモゾロミド化学療法へのインターフェロンαの追加で初発高悪性度神経膠腫の生存期間が延長することが多施設共同第3相臨床試験で示唆されたとの研究報告

[JAMA Network Open](#)誌に掲載された結果から、テモゾロミドとインターフェロンα（ウイルス感染時に体内で自然に産生される物質）の併用に関する第3相ランダム化臨床試験（[NCT01765088](#)）で、2剤併用患者ではテモゾロミド単剤患者と比較して生存期間が延長した（5年生存率18.1%対9.1%）。本研究には、初発高悪性度神経膠腫患者199人が含まれた。生存期間延長は、腫瘍に非メチル化MGMT遺伝子（転帰不良およびテモゾロミドに対する低反応性のマーカー）が認められる患者で最大であった。MGMT遺伝子非メチル化高悪性度神経膠腫患者は、テモゾロミド＋インターフェロンαの併用療法が有益である可能性を本臨床試験の著者らは示唆している。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 脳腫瘍を検知する新規尿検査技術が開発との研究報告

尿中に含まれる細胞外小胞という粒子を検出し、脳腫瘍の有無を判定できる新しい検査装置を開発したという論文が [ACS Nano](#) 誌に掲載された。細胞外小胞はほとんどの種類の細胞から体液中に放出される微小な泡で、疾患のバイオマーカーとして利用可能である。何段階もの工程を経る他の細胞外小胞検査技術と異なり、本検査技術では、尿検体を小さなウェルに入れ、ウェル内に配置された指状の小さな突起（「ナノワイヤ」）が特定の細胞外小胞を捕捉する。次に、補足された細胞外小胞を紫外線で検出する。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 「ジャンクフード」と脳腫瘍の関連が研究で明らかに

eClinicalMedicine誌に掲載された大規模研究で、超加工食品の摂取と脳腫瘍などの数種類のがんの関連を突き止めたことが報告されている。研究者らは [英国バイオバンク\(UK Biobank\)](#) のデータを用いて、197,000人の中年成人の食生活を調査し、10年間にがんと診断されたり、死亡したりするリスクを分析したところ、食生活の中で超加工食品が10%増えるごとに、あらゆる種類のがんの発症リスクが2%、脳腫瘍発症リスクが9%増加するという結論が出た。超加工食品には、朝食用シリアル、工業的に製造されたパン、ピザ、ハンバーガー、菓子類、炭酸飲料、およびインスタント食品が含まれる。 [続きを読む](#)（論文全文）。

[目次に戻る](#)

## 神経膠腫関連てんかんと腫瘍増殖の背後にある過程が研究で明らかに

[Neuron](#) 誌に掲載された研究で、神経膠腫腫瘍がてんかん発作を誘発する機序が見いだされた。神経膠腫患者を対象とした一連の実験、遺伝子解析、および神経膠腫をもつマウスの実験から、研究者らは、神経膠腫が隣接する正常脳細胞のカリウム吸収能を阻害し、これが腫瘍増殖を促し、発作を誘発すると推論できた。こうした結果が神経膠腫関連てんかんと神経膠腫自体の治療法の発見を促す可能性があるとして研究者らはニュースリリースで示唆している。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 再発高悪性度神経膠腫における音響力学療法の米国での臨床試験で患者を募集中

再発高悪性度神経膠腫成人患者における音響力学療法（SDT）の第0相ファースト・イン・ヒューマン臨床試験\*（[NCT04559685](#)）は現在患者を募集中であることをバロー神経学研究所アイビー脳腫瘍センター（米国アリゾナ州）は発表した。本臨床試験では、薬剤SONALA-001を注入後、磁気共鳴ガイド下集束超音波治療装置であるExablate 4000 Type-2 Deviceで処置することで薬剤を活性化させ、腫瘍組織の破壊を誘発する。 [続きを読む](#)。

\*訳注：被験薬/治療法を動物ではなくヒトに対して世界で初めて投与/実施する臨床試験

[目次に戻る](#)

## 小児びまん性内在性橋膠腫の有望な治療薬ONC201にまつわる話から学ぶべき点を考察した小論文

[The Lancet Oncology](#) 誌に掲載された小論文「小児腫瘍学における新薬の入手：今も続くONC201にまつわる話から何を学べるか？」は、小児びまん性内在性橋膠腫（DIPG）の治療薬として早期に有望視された治験薬ONC201の複雑な物語を記述するものである。本論文の著者らは、小児びまん性内在性橋膠腫などの致命的ながんの小児患者の親が有望な新薬を安全に入手できるように、初期の臨床試験への参加の拡充や規制の枠組みの変更などの革新的な治療法の利用という課題に対する解決策の可能性に関して論じている。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 成人における希少脳腫瘍の診断、治療、および分類に関する総説論文

Cancers誌に掲載された総説論文は、利用可能な科学的根拠に基づいて、成人における希少な神経細胞腫瘍、神経膠腫、およびグリア神経細胞腫瘍の分類、診断、および最良の治療法を要約・概説するものである。こうした腫瘍は希少だが、ほとんどが若年成人や小児に認められ、原発性中枢神経系腫瘍の5%未満を占める。本論文は、利用可能な研究と科学的根拠を評価し、こうした腫瘍に対する最良の治療法と将来的な治療法候補に関する推奨事項を提示するものである。[続きを読む](#)（論文全文）。

[目次に戻る](#)

## 【企業ニュース】

### 初発膠芽腫の治療機器オプチューンがフランスで医療費償還の対象になる：ノボキア社発表

オプチューンとテモゾロミドの併用がフランスにおいて初発膠芽腫成人患者の治療法として医療費償還の対象になり、利用可能になったことをノボキア社は発表した。社会保障法L165-1条に規定される償還可能製品とサービスのリスト（LPPR）にオプチューンを登録する命令は、2023年2月28日に官報に掲載され、2023年3月15日に発効する予定である。オプチューンは、がん細胞の分裂を阻害する電場である腫瘍治療電場（TTフィールド）を発生させることで効果を発揮する医療機器であり、腫瘍治療電場を腫瘍の存在する部位に送達する。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

### 非小細胞肺がんの脳転移を対象としたMETIS試験に関する最新情報：ノボキア社発表

ノボキア社は、非小細胞肺がん（NSCLC）脳転移患者の治療用の定位放射線手術（SRS）後の腫瘍治療電場（TTフィールド）療法の有効性を評価する重要なMETIS試験において、最終患者が登録されたと発表した。METIS試験は、非小細胞肺がん由来の1～10個の脳転移を有する成人患者270人を登録するよう設計されたランダム化非盲検試験である。主要評価項目は、最初の頭蓋内増悪までの期間である。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

### 米国食品医薬品局がFLAG-003を小児びまん性内在性橋膠腫患者の治療薬として希少小児疾患治療薬に指定：FLAG Therapeutics発表

FLAG Therapeutics社は、低分子治験薬FLAG-003が小児びまん性内在性橋膠腫（DIPG）治療薬として、米国食品医薬品局（FDA）から希少小児疾患（RPD）治療薬指定を受けたことを発表した。FLAG-003は血液脳関門を通過する薬剤で、がん細胞に結合して腫瘍の血液供給能力を低下させ（抗血管新生）、細胞分裂に不可欠なタンパク質であるチューブリンを阻害することで、がん細胞を殺傷するよう設計されている。希少小児疾患指定を受けると、当該薬剤が希少小児疾患指定で対象となった疾患に対して最初に承認された場合に優先審査バウチャー（PRV）などの特典が与えられる。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

### 米国食品医薬品局がBEA-17を膠芽腫治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Beactica Therapeutics社発表

Beactica Therapeutics社は、治験薬BEA-17が膠芽腫治療薬として、米国食品医薬品局（FDA）から希少疾病用医薬品指定を受けたことを発表した。希少疾病用医薬品指定により、企業は米国政府からの助成金や適切な臨床試験に対する税額控除などの特典が受けられる。前臨床研究で、BEA-17が膠芽腫の標準治療（放射線+テモゾロミド）を強化することが示されている。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

### 米国食品医薬品局がAdze-1.17-CD40Lを悪性神経膠腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Adze Biotechnology社発表

Adze Biotechnology社は、免疫療法薬Adze-1.17-CD40Lが悪性神経膠腫の治療薬として、米国食品医薬品局（FDA）から希少疾病用医薬品指定を受けたことを発表した。Adze-1.17-CD40Lは、腫瘍細胞を攻撃して、その中で複製し（複製型腫瘍溶解性ウイルス）、免疫系を賦活する遺伝子組換えウイルスである。 [続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

## 米国食品医薬品局米国が経口薬JBI-778を膠芽腫の治療薬として希少疾病用医薬品に指定：Jubilant Therapeutics社発表

Jubilant Therapeutics社は、治験薬JBI-778が膠芽腫の治療薬として、米国食品医薬品局（FDA）から希少疾病用医薬品指定を受けたことを発表した。JBI-778は、脳内に浸透し、がん増殖を促進する酵素であるPRMT5を阻害する経口薬である。動物を用いた非臨床試験で、JBI-778は膠芽腫の増殖を抑制し、生存期間を延長した。 [続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

## 神経膠腫患者の重要な臨床変異の同定を支援する2種類の新規抗体を発売：ロシュ社発表

ヘルスケア企業であるロシュ社は、悪性脳腫瘍の診断と分類に役立つように設計された2種類の新規抗体を発売すると発表した。ウサギモノクローナル一次抗体IDH1 R132H（MRQ-67）とウサギポリクローナル抗体ATRXの2種類の抗体は、腫瘍検体の神経膠腫の2つの重要な遺伝的特徴（それぞれIDH変異とATRX変異の状態）を検査するために使用される。こうした遺伝子変異に関する情報は、臨床医がさらなる個別化治療を提供することに役立つ。 [続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

## 【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

COVID-19の大流行後、私たちは徐々に対面式のイベントに戻りつつあります。しかし、登録や旅行計画を立てる前に、予定されているイベントの状況や対面式、ハイブリッド式、バーチャル式のいずれであるかについて、カンファレンス主催者に確認するようにしてください。

[目次に戻る](#)

### 2023年3月

[サブサハラ・アフリカ神経腫瘍学会 \(SNOSSA\) 第一木曜教育ウェビナー：脳神経外科](#) 2023年3月2日 オンライン  
[低悪性度神経膠腫管理に関する会議](#) 2023年3月9日 英国 ロンドン  
[第4回膠芽腫創薬サミット](#) 2023年3月14日-16日 米国 マサチューセッツ州 ボストン  
[肉腫と希少がんに関する欧州臨床腫瘍学会年会](#) 2023年3月20日-22日 スイス ルガノ

### 2023年5月

[国際小児がん学会2023年大会～ご予定を！](#) 2023年5月8日-12日 スペイン バレンシア  
[クイーンスクエア脳神経外科レビューコース \(ハイブリッドコース\)](#) 2023年5月9日-13日 英国 ロンドン

### 2023年6月

[米国臨床腫瘍学会\(ASCO\)](#) 2023年6月2日-6日 米国 シカゴ  
[2023年脳腫瘍学会小児脳腫瘍研究会議](#) 2023年6月22日-24日 米国 ワシントンDC

### 2023年7月

[英国神経腫瘍学会年会](#) 2023年7月5日-7日 英国 マンチェスター

### 2023年8月

[2023米国神経腫瘍学会/米国臨床腫瘍学会中枢神経系腫瘍会議](#) 2023年8月10日-12日 米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ

### 2023年9月

[第18回欧州神経腫瘍学会大会\(EANO2023\)](#) 2023年9月21日-24日 オランダ ロッテルダム

### 2023年10月

[第26回脳神経外科世界会議 \(WCN2023\)](#) 2023年10月15日-19日 カナダ モントリオール  
[第19回アジア脳腫瘍学会年会\(ASNO2023\)](#) 2023年10月27日-29日 インドネシア バリ

### 2023年11月

[欧州がんサミット2023～ご予定を！](#) 2023年11月15日-16日 ベルギー ブリュッセル  
[第28回神経腫瘍学会大会、教育イベント \(SNO2023\)](#) 2023年11月15日-19日 カナダ バンクーバー

脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議（バーチャルか対面かは問わず）を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、[kathy@theibta.org](mailto:kathy@theibta.org)まで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTAウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

## IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）について

## 私たちについて

国際脳腫瘍ネットワーク（The International Brain Tumour Alliance：IBTA）は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は [www.theibta.org](http://www.theibta.org) をご覧ください。

ご意見をお聞かせください

IBTAコミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先：[chair@theibta.org](mailto:chair@theibta.org)

月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購入者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。

メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。

Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

（免責事項）国際脳腫瘍ネットワーク（IBTA）は、e-News（あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されたニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等）に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。（スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください）。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。

翻訳： 渡邊 岳、伊藤 彰/JAMT（ジャムティ）翻訳チーム

監修： 夏目 敦至/名古屋大学未来社会創造機構・特任教授  
河村病院・脳神経外科・部長